

敵基地攻撃能力検討明記

22年防衛白書 中ロ連携に警戒感

岸信夫防衛相は二十二日
の閣議で、二〇二二年版の
防衛白書を報告した。政府
が年末に予定する国家安全
保障戦略などの改定に向
け、敵基地攻撃能力を改称
した「反撃能力」の保有を

検討していると初めて明記
した。政府が増額を検討す
る防衛費を巡っては、「国民
一人当たり換算額の対比表
を新たに記載。他国より少
額である」と強調し、増
額の必要性を訴えた形だ。

白書は、ロシアのウクラ
イナ侵攻を国際法違反と批
判した上で、「アジアを含
む国際秩序全体の根幹を搖
るがす」と指摘。「一方的
な現状変更が認められる
の誤った含意を与えるな
い」として海洋進出を強め
る中国を念頭に、東アジア
への波及に懸念を表明。ロ
シアと中国の連携強化の動
きは「重大な懸念を持つて
注視していく」と警戒感を
示した。

中国や北朝鮮による迎撃
困難な新型ミサイルなどの
開発を受け、抑止力を高め
るために敵基地攻撃能力を
含む「あらゆる選択肢」を
検討しているとした。相手
国の武力行使の着手後に反
撃するもので「先制攻撃と
は異なる」とも説明した。
中国に関して、軍事力の

強化や繰り返される沖縄県
・尖閣諸島周辺での領海侵
入などを「安全保障上の強
い懸念」とし、「こうした
傾向は近年より一層強まっ
ている」と指摘した。